

50代からが面白い!

ゆうゆう

You You

秋のお楽しみ特大号

2012 **10** 月号 OCTOBER

ゆうゆう インタビュー **黒柳徹子**さん

好評連載中 **佐藤愛子**さん
「老兵は死なず」

特別インタビュー

「**年齢を重ねる**」
ということ

曽野綾子さん
岸 朝子さん

この人に聞きたい!
岡田准一さん

年金生活に入る前に
「おつき合いを
小さくしたい」

脳にいい生活

病を得てこそ、
自分らしく生きられる

私の更年期物語&
ポスト更年期対策

綴じ込み付録

「小さな美術館&文学館」

発芽野菜で元気! **レシピ**

ペットと暮らす幸せ

創刊11周年 お楽しみ企画2号連続

第3回「私の挑戦」大賞募集

浜 美枝さんと過ごす晩秋の箱根
五月みどりさんのおしゃれ塾in熱海
ゆうゆうモデルオーディション

期間限定キャンペーン

年間定期購読をお申し込みいただくと
ゆうゆう手帳

図書カード500円分プレゼント

鼎談

富司純子さん
吉行和子さん
中尾ミエさん

特集 **人生が豊かになる**
旅の愉しみ

旅のお土産プレゼントつき
オランダ、ベルギー・フランダース
花と運河を訪ねる旅
スタイリスト石田純子さんが提案
旅の着回しレッスン



要介護でも認知症でも行ける旅を提案

ちよつとしたお出かけから海外旅行までOK。 旅を決めた瞬間から、人は変わります

旅は健康であればこそ。病気になるたらもうできない。そんな読者の不安の声に「そんなことはありません。介護が必要な状態でも旅は楽しめます」と篠塚さん。要介護者の旅を実現する「介護旅行」について伺った。

篠塚恭一 さん ●株式会社SPI あ・える倶楽部 代表取締役

トラベルヘルパーが同行し、
外出や旅行をサポート

篠塚さんは元添乗員。病に倒れて旅をあきらめ、心の張りまでなくしてしまった人たちを目にし、1991年に「要介護の人でも旅を楽しんでほしい」と介護旅行を提供する会社を設立。介護旅行とは、介護と旅行の知識をもつトラベルヘルパーが同行する外出や旅のことだ。

「お客さまで一番多いのは『お墓参りがしたい。サポートして』という



Profile

しのづか・きょういち ●旅行会社の添乗員を経て、1991年「SPI あ・える倶楽部」を設立。要介護者の外出や旅を支援するトラベルヘルパーの派遣や介護旅行のコーディネートを行う。2006年NPO法人日本トラベルヘルパー協会を設立。

方。『車椅子の親を孫の結婚式に出席させてあげたい』など、お子さんからの依頼も数あります。最初は本人も家族も『これが最後の旅になるだろう』と思っているんです。でもトラベルヘルパーの介助があれば飛行機にも乗れるし、段差も狭い道も車椅子で移動できる。『なんだ、旅ができるぞ。ならば次はあそこへ』とスイッチが入るみたいです(笑)』

それが証拠に「あ・える倶楽部」はリピーターが約7割と多い。利用法は人それぞれで、買い物や映画観賞などのちよつとした外出に対して依頼する人も増えている。

「1カ月に二度、トラベルヘルパーとの外出が恒例になっている男性もいらつしやいます。『車椅子生活になつて施設に入り、海外旅行ができなくなった。せめていろいろな国の食を楽しみたい』とインドやエジプトな

ど、30カ国くらいのレストランに行きました。現在は東京の名所巡り。お台場、六本木、メイドカフェも楽しみました(笑)。車椅子で行けるところを探しているわけではありません。お客さまが行きたいところを車椅子で楽しむためにどうするか、段取りやサポートを行っています」

もちろん、国内・海外問わず旅行の依頼も多くある。同窓会を兼ねた温泉旅行を楽しんだ人、ビーチ用車椅子で「孫と沖繩の海を泳ぎたい」という夢を叶えた人、エーゲ海クルーズを満喫した車椅子の人など十人十色。「お客さまの最高年齢は106歳。要介護5の寝たきりの女性でしたが、富山から京都まで紅葉を見る旅をしました」と篠塚さん。また、他社のパッケージツアーにトラベルヘルパーと一緒に参加するという利用の仕方もあるそうだ。

あ・える倶楽部を利用する際の3つのポイント

安心して利用してもらうためには以下の確認事項があります。
この3つさえクリアすれば、誰でも利用できます。

- 1 本人が「行きたい」という希望をもち、その意思確認ができること
- 2 家族やそれに代わる人(日常生活がわかる人)の同意があること
- 3 主治医やケアマネージャーなど、医療・介護の専門家(日頃の介護状況がわかる人)の許可があること



認知症も何のその! ブルガリア旅行を満喫

トラベルヘルパーと2人でブルガリアを旅したKさん。「観光も現地の人との触れ合いも楽しそうでした。現地のお祭りに参加し、ダンスも披露してくださったんですよ」とトラベルヘルパーの廣中さん。母の笑顔の写真にサービスを依頼した娘も大喜び。

これまで 利用した方の 思い出 アルバム



お墓参りの後は 海を見ながらランチ

親戚宅への訪問など、何度もサービスを利用しているKさん。この日は都内から神奈川県にあるお寺へ。お墓参りの後は寺の近くにある海へ行き、車椅子で砂浜を散歩。海が見える店でランチも楽しみました。



トラベルヘルパー同行で 孫の結婚式に出席

千葉から都内で行われた孫の結婚式へ。着ている服はトラベルヘルパーと一緒にデパートへ行って買ったもの。孫への思いと結婚式に出席できた喜びが笑顔に凝縮されています。



車椅子での1泊旅行。 大浴場で温泉につかる

93歳の誕生日、京都から石川県の加賀温泉へ。トラベルヘルパー2人の介助で大浴場に入り、ご満悦の様子。旅行をプレゼントした娘のお酌で祝い酒も!

もっと知りたい! Q&A

Q 利用したい場合、 まずはどうすればいいの?

A 電話またはHPから気軽にお問い合わせください。もちろん要介護の方だけでなく、どなたでも利用できます。身体状況などをお伺いし、ご希望の内容に合わせたプランをご提案していきます。

Q 利用料金はいくら?

A 基本料金は介護度の状態に応じて1日2万1000～2万6250円、半日1万3650～1万7060円。他に同行するトラベルヘルパーの旅費や食事代などががかかります。サポート内容などによって加算もあります。

Q トラベルヘルパーに 興味があるのですが……

A NPO法人日本トラベルヘルパー協会で、トラベルヘルパー養成講座および検定試験を行っています。お問い合わせや講座説明会の申し込みは☎03-6415-6688へ。http://www.travelhelper.jp

問い合わせ先

(株) SPI あ・える倶楽部
☎03-6415-6480
http://www.aelclub.com

「行きたい」の夢を叶える
介護旅行で、生活も変わる

数時間の外出から海外旅行まで、内容は異なれど、それが要介護者の心と暮らしの張りになるという。

「皆さん、外出や旅の予定を決めた瞬間から変わります。『少しでも動けるようになってより楽しみたい』とリハビリに励んだり、嫌々だったデイサービスに率先して行くようになったり。旅という目的ができて気持ちが前向きになる。名所などを調べ、自分でプランを立てる人もいます。旅や外出の最中は弾けるような笑顔! 脳を刺激するのか、認知症の人も表情が豊かになります。一緒に旅した家族や旅行の写真を見た施設の方が『こんなにいい顔をする

と自信がつくと『どうせ無理』とあきらめていたことも『とにかくやってみよう』となるなど、旅をきっかけに生き方が変わる人も大勢います」

そして、家族も変わるという。

「親の笑顔がうれしくて『もっと喜ばせたい。近場なら私が連れていこう』と外出に積極的になる人が多いです。トラベルヘルパーの入浴介助法を見て『私にもできるかも』と体が不自由な老親をお風呂に入れてあげるようになった娘さんもいます」

要介護者の「行きたい」を実現する介護旅行。「体が不自由になったら旅はできない」「介護している親を連れていきたいけど」という悩みも、こうしたサービスを利用すれば可能旅の可能性は確実に広がっている。